

川を

きれいに

△田宿川のたらい流し川祭り(8月)

佐野日出子さんのお宅は、鷹岡中学校南側付近の住宅地。生活排水はめぐりめぐって凡夫川に流れ



佐野日出子さん

生ごみを流しません

「川や側溝が汚い、嫌なにおいがして困る」という体験をお持ちの人も多いはず。これまで川の汚れの原因は、工場排水であると考えられてきました。最近の調査では、河川の汚れの約六割は私たちの日常生活から出る排水によって占められていることがわかってきました。

そこで、市は生活排水浄化のモデル地区として鷹岡地区を指定し、区長会・婦人会の皆さんが中心となって、九月十六日から十月十五日まで排水浄化活動に取り組みました。積極的に活動された久沢東の佐野日出子さんの実践例を紹介しながら、家庭でできる生活排水対策をお知らせします。

込んでいます。

佐野さんは昭和六十年に先生を退職してから婦人会で消費生活運動を担当し、きめ細かな排水浄化活動を行っています。

まず、大きな特徴は流し台。流し台の排水口の下に佐野さん特製のフィルターが取り付けられています。といってもフィルターとは、古ストッキング。大変小さいゴミまで取り除くことができます。フィルターはストッキング一足分で幾つもつくれ、ハイソックスや

靴下でも代用できます。三角コーナーで、大きなごみを取るの、排水にはごみがまったく入りません。三角コーナーの生ごみは庭に埋めてあるポリプラスチック製の容器に入れ、家庭菜園の堆肥にしています。また、残飯などは犬のえさにすることもあり、生ごみはほとんど出していません。

もっとも、佐野さんは「食事は残飯が出ない量をつくり、残った

佐野さんちの

生ごみは…

特製フィルターをつけ



に



このとおり

そして



堆肥に

ら再調理するなどして、むだにしないことが肝心ですね」とのこと。当然のことのようですが、大切なことです。

油やとぎ汁も有効に

食用油は、てんぷらの後はいため物などに使います。一番最後に残った油はためておき、年に二回ぐらい石けんづくりに利用しますが、油も捨てずにすんでいます。

米のとぎ汁は、植木にやっていますが、天気の悪い日などはバケツにためておき、上澄みを捨てて量を減らすなどの工夫をしています。

また、洗濯にはふろの残り水を利用して、洗剤は粉せっけんを使っています。

佐野さんは先日、洗濯機を買いましたが、二槽式にしました。全自動式では、一回の洗濯液で一回しか使えないからです。これは、水の有効利用にもつながっています。

一人ひとりが注意を

佐野さんは、今回、生活排水浄化のモデル地区となつてから、凡夫川を意識して見て歩きました。

「川の水量が少ないので、一部には入浴剤の入った水がよどんでいたりと、ごみも多く、かなり汚れているのに気がつきました。下水道を早く引いてもらうのが一番ですが、一人ひとりがちよつとした

＜強化期間に行われた水質検査



注意で随分きれいになると思いますが」と語ってくれました。

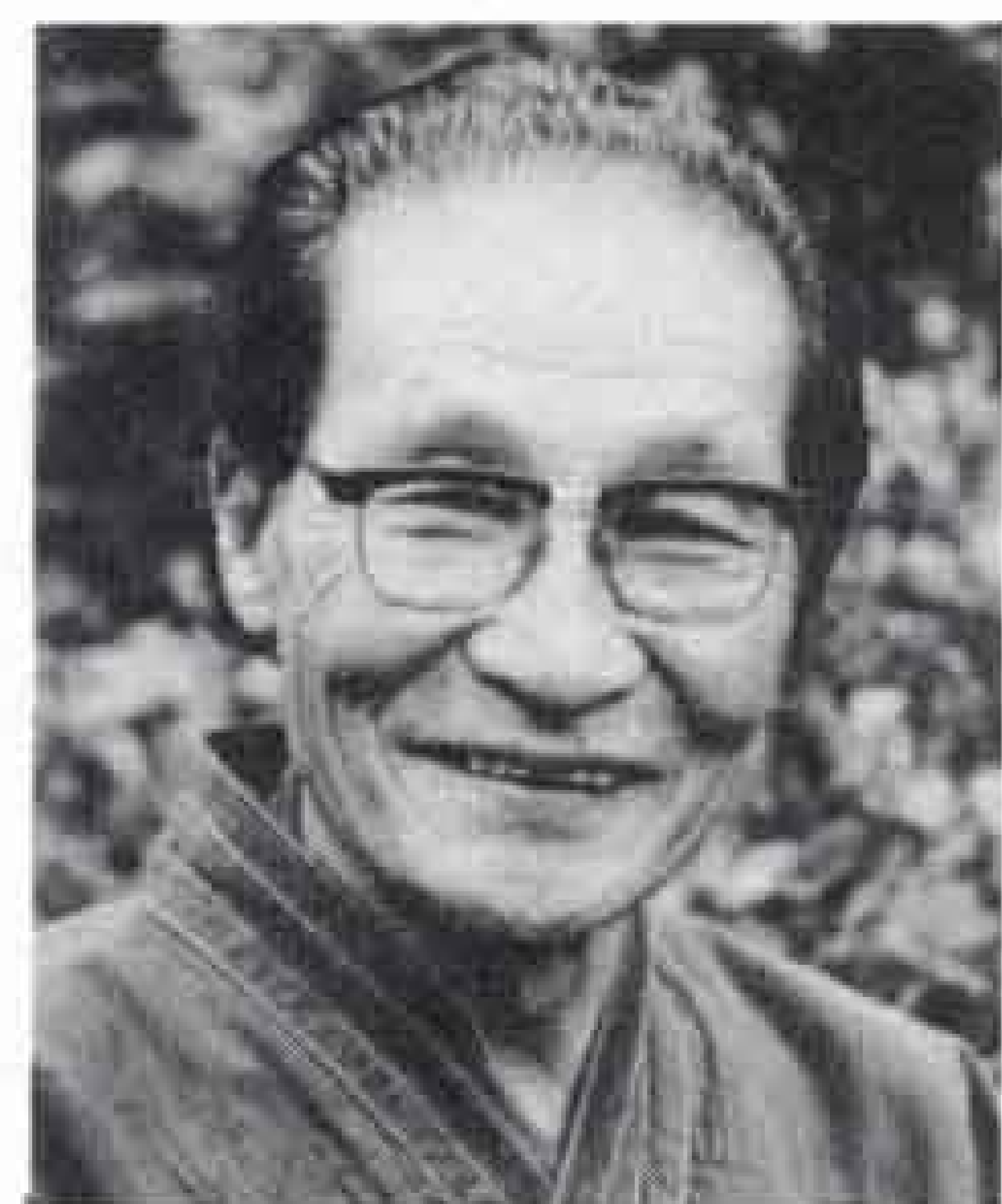
できることから挑戦を

以上、佐野さんの生活排水浄化の工夫を紹介しましたが、各家庭の住宅環境などにより、なかなか同じようにできないかと思えます。市は今回の実践活動を行うに当たり、鷹岡地区の各家庭に、三角コーナーに入れる水切り袋と浄化のための対策資料を配布しました。皆さんもできることから挑戦してみませんか。

▷油は直接流さない



田宿川にニジマスを放流



中山章さん (市場町・69歳)

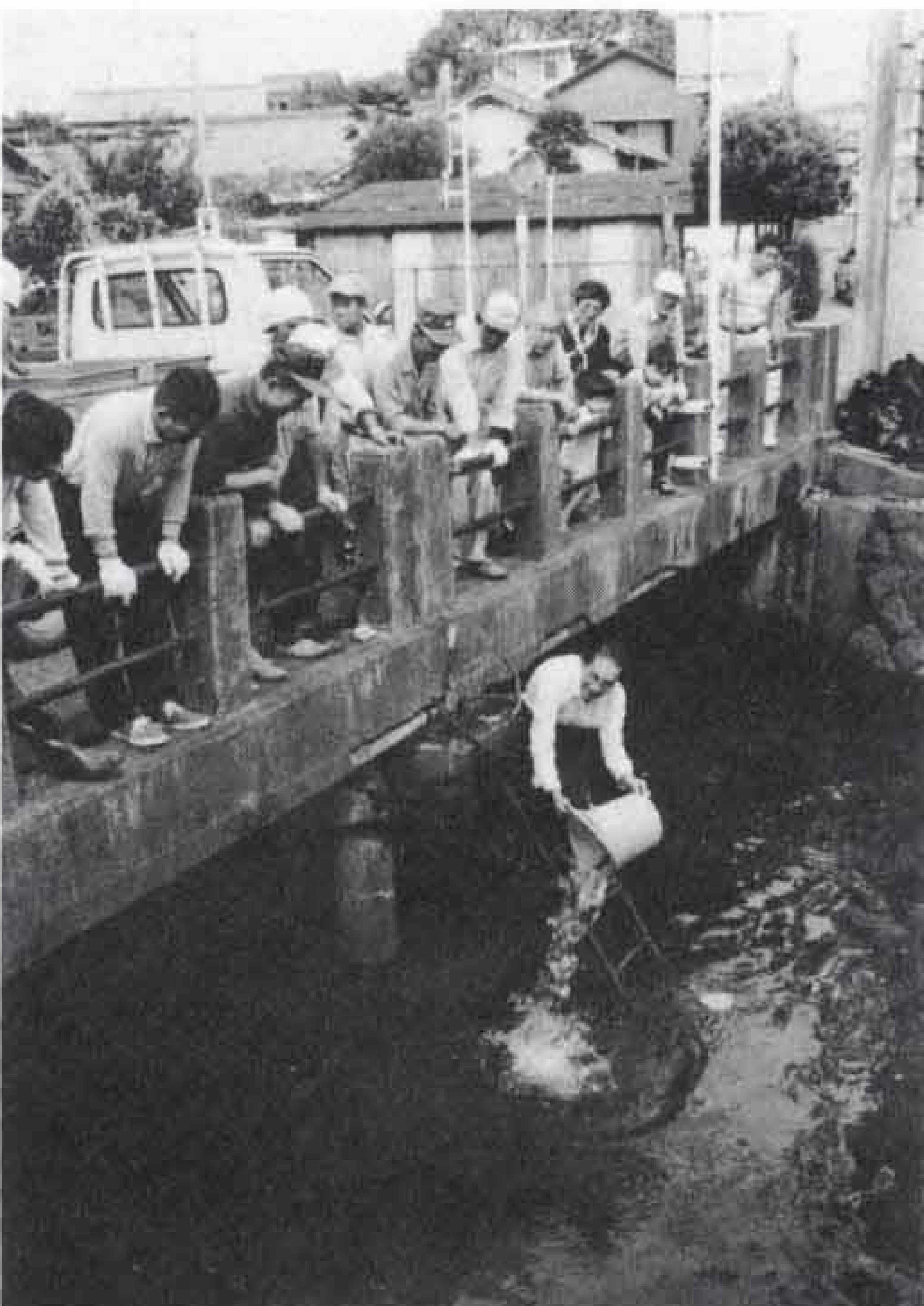
今泉の田宿川といえば、昭和四十年代は公害と生活廃水でへドロの川でした。

それが、最近は公害の防止と下水道の普及、そして川の周辺六町内で行く河川委員会の皆さんの河川美化活動により、清流をとり戻しつつあります。八月には、たらい流し川祭りが行われるなど、親しみのある水辺空間となつてきています。中山さんは、そんな田宿川が

富士宮市の神田川のように、たくさん魚のいる川にならないかと考え、四年前から個人的に、ニジマスやヤマメを放流してきました。その数は、大小合わせて延べ四千匹を数えます。

最初に放流したときは、子供たちに釣られてしまいました。子供たちが喜ぶ姿を見るのも悪くなかった」と言います。

二・三年前にはアユの遡上が確認され、ことは一昨年放流したマスも見ることができました。中山さんは「田宿川はきれいになったとはいえ、空き缶などは、まだ結構あります。魚が多く住むことで人々の関心が高まり、より一層きれいになれば」と語ってくれました。



△10月2日、約250匹のニジマスを放流